



第9号

発行
成相山成相寺
京都府宮津市宇成相寺339
TEL0772-27-0018
<http://www.nariaiji.jp/>

仏弟子になる

錦秋の候、皆様方にはいかががお過ごしでしょうか。お伺い申し上げます。今年には正月の大雪に始まり、東北の大地震、原子力発電所の放射能漏れ。名古屋の水害、そして紀伊半島の大水害と、災難続きの日本列島です。

皆様方のお住まいの方は大丈夫でしたか。災害に遭われた皆様には心よりお見舞い申し上げます。

東北の震災では未だに行方不明の方が沢山いらっしゃいます。ご親族にしてみればせめて髪の毛でもあればお葬式を出せるのに。とお思いになられるお気持ち痛いほどよく解ります。

私は僧侶でありますから、お葬式を常日頃執り行わせて頂いております。お経の途中で涙が止まらなくなるお葬式もあれば、大往生で安心してお見送りできるお葬式もあります。

先日、私どもが兼務致しておりますお寺の婦人会のお集まりがありまして、そこでお話しさせて頂いたのですが、お葬式というのはもちろん亡くなられた方を見送る儀式ですが、亡くなられた

方が仏弟子になられる儀式でもあるのだと言うことを話させて頂きました。つまり、仏教徒であると言うことは、生前であるか没後であるか、どちらかで仏様の弟子になると言うことなのです。

檀家の若い奥様方が「へー。知らなかった。」と大きくうなずいて下さっているのを目にして「おやっ。意外に知られていない。私の怠慢のせいかな」と反省致しました。

お葬式というと最近は簡略化や金銭問題ばかり目に付くようになってしまいました。本来は戒名と言うお坊様の名前を頂かれて、仏様の弟子になる。そして極楽浄土に上られる。と言うことなのです。私の場合は子供の頃は哲郎と申しましたが、得度（出家の儀式）を受け弘真と名を変えました。そして行を終え二十二才で、社会的にも戸籍上も弘真となったのです。

成相寺は真言宗のお寺ですのでこの葬式に関わる儀式は宗祖弘法大師が中国に渡り恵果和上より授かって参りました密教の秘密をその後千二百年にわたり代々師僧から受け継ぎ、そして私から檀家の皆様へお授けするという、

とても大切な儀式なのです。

最近、直葬とかお別れ式という言葉が聞きます。宗教に関係なく故人をお見送りする。というのですが、葬式の本来的意味からすると、どうなるのだろうかと考えてしまいます。しかしながら、死後の世界は誰にも解りません。故人様が望んで満足されるのが一番良いのでしょうか。どちらにせよ亡くなられた方を鄭重にお見送りする。これは絶対にながしるにはいけないことです。

東北の震災の直後、若い僧侶が雪中、葬式用の袈裟を着け、長靴でご遺体の発見された場所の目印の赤い旗の立つ被災地を歩き回っている映像を見ました。彼はきつと、一人でも多くのお亡くなりの方に彼の宗派の儀式を行って引導をお渡ししているんだろうな。と思いました。望まれて、とかではなく、彼の僧侶としての使命のような物が彼を動かしていたのだろうと思います。頼もしいと感じる姿でした。

震災から日にちも過ぎて一歩一歩復興も進んで参りました。何よりです。しかし、まだまだ、これからの事です。私達に出来る事は沢山ありますが、一

番大切なことは忘れない事です。多くの悲しみや苦しみがあった事、今なを苦しんでおられる方がいらっしゃる事を忘れない事です。忘れないこと。観音様のように慈悲の心を持って移りゆく世の中の色々な事を見つめていきたいものです。

南無観世音菩薩

山主 弘真

合掌



山内順礼第七回

弥勒菩薩曼荼羅

只今本堂の内陣で年末までお祀り致しておりますのが、この弥勒菩薩曼荼羅図です。弥勒菩薩様というのは、仏陀の入滅後56億7千万年後の未来に姿を現わされて、多くの人々を救済するとされる仏様です。なんと気の遠くなるような年月ですが、私達に未来永劫安心をお約束をして頂いている仏様と考えれば、なんと嬉しくなりますね。京都の広隆寺にお祀りされております弥勒様が大変有名で「弥勒菩薩半跏思惟像（みろくぼさつはんかしそう）」と言いまして片足を組んで右手の薬指を頬にあてて物思いにふける姿の仏様。国宝の第一号の仏様です。また弘法大師は亡くなる時、自分はこれか

ら弥勒菩薩のいる所へ行つて、56億7千万年後に弥勒菩薩とともにこの世に戻つて来る、と云われたという話が伝わっています。成相寺の弥勒菩薩様は曼荼羅として描かれておまして、廻りに阿しゆく如来が描かれております。大変珍しい仏画です。製作年代は南北朝時代、もしくは室町時代とされており、作者等は不明です。弥勒様のお顔はとても明るい笑顔で、口の角が上がって見えている私達も自然と笑顔になる仏様です。十二月頃まで内陣にてお祀り致しております。是非一度ご覧にお越しくださいませ。



(弥勒菩薩曼荼羅図)

御縁がたり



先日、大学の先生がお参りに来られて、楽しいお話を伺いました。丹後の国は元々大陸からの直接の影響を受けて古代より独自の文化圏として栄えた土地柄ですが、それに加えて鉱物資源の豊富な土地でもあったようで、朱塗り等にも使われる鉛が産出されていたという記録があるそうです。

古代、京都や奈良の都からこの丹後に旅するのは、丹波を越えてですとか、色々ルートがあったようですが、その一つが琵琶湖の西を通って若狭に出て、そこから船路で舞鶴、宮津に着けたそうです。大和朝廷はこの資源や大陸からのルートの確保のために丹後の国をたいそう警戒していたようで、福井若狭からこの橋立に至るまで多くの寺社が勅命で建立されています。経済や資源と云った観点から丹後と都との古くからの関わりを考えると又、違った見方が出来ると云うようなお話でした。

丹後若狭一帯は仏像の宝庫でもあります。そして伝説神話の宝庫でもあり、大変興味深い土地となっております。今年の三月には京都縦貫自動車道路の「与謝天橋立IC」がオープンしまして成相寺まで京都駅から車で二時間ほどで到着するようになり、大変便利になりました。大昔と比べると隔世の感、どころではない距離になりました。

来年は丹後王国建国千三百年祭も企画されているそうです。どうぞ、お泊まりでゆっくりと丹後の国を味わいにお出かけくださいませ。

